2026 年度　第2回神戸市障害者施策推進協議会　議事要旨

日時：2026 年9月1日（火）　14：00～16:00
場所：神戸市役所1号館 14 階　大会議室

〇議題
（1）次期神戸市障がい者プラン策定について
　①　各協議会等からの意見（資料2～4）
　②　次期神戸市障がい者プランの策定に関するインタビューまとめ（資料5）
　③　次期神戸市障がい者プラン骨子案（資料6～8）
→事務局より説明後、協議会で承認

【主な意見】
・　発達障がい児・者への切れ目のない支援を実践していくためには、情報の集約・共有化と人材の育成が極めて重要であり、支援機関同士のネットワークの強化と交流が不可欠と考えられる。しかし支援機関同士のネットワークは十分とは言えず、行政からの働きかけが必要だと思う。
・　4月に改正された医療的ケア児支援法では、対象がこれまでの医療的ケア児だけでなく、医療的ケアの必要な成人、そして重度心身障害者も加わった。さらに、災害時の備えや対応も医療的ケア児支援センターの役割と記載されており、神戸市でのセンターの設置が必要だと感じている。
・　施設から地域に移行したくても、人手不足により介護サービスが受けられないことや住まいが見つからないことがある。また、地域移行には、地域生活の体験機会や相談できる事業所も必要だと思う。ハード面・ソフト面の両方から社会資源を充実させてもらいたい。
・　一人ひとりに目を向けられる小規模で家庭的なグループホームを多く整備し、本人や家族が安心して地域で生活できるようにしてほしい。
・　知的障がいの入所者は高齢化・重度化している。また、定員が空いても常に待機者がおり埋まってしまう状況であるため、地域移行はなかなか難しいと思う。
・　入所施設は老朽化しており、権利擁護や感染症予防の観点からも個室化を進める動きとなっているが、個室化するには入所施設の定員も減らさないといけない。
・　重度化・高齢化した方が地域移行するには、小規模なグループホームだけでなく日中に支援員を配置できるようなグループホームなど多様な住まいの場が必要だと思う。
・　グループホームの独自指標については、この 3 か年に期待がもてる目標設定にしてもらいたい。
・　グループホームがまだまだ必要だという意見が出ているが、最低賃金の上昇により、グループホーム含め様々なサービスに影響がでており、特に小規模事業所では運営が厳しく

なっている。色々な報酬の加算があるので、神戸市から事業所に対して情報提供など支援を検討してもらいたい。

- 強度行動障がいの状態にある方も適切な支援をすることで他の障がいのある方と共にグループホームで暮らせる事例がある。研修など適切な支援が行える人材の育成が必要だと思う。
- 強度行動障がいの状態にある方の支援について、文部科学省から学齢期の間の支援の重要性に関する通知文も出されているようだ。学齢期の支援の体制づくりをしてもらいたい。
- 災害時の個別避難計画に加えて、避難生活の計画も必要だと思う。また、個別避難計画に関する目標値が前回と同じだが、対象者を広げてほしいと思っている。数値目標を引き上げることも含め検討してもらいたい。
- 福祉避難所に避難する対象者は提示されていないが、事前に調整しておく必要があると思う。運用方法の見直しを含めて検討してもらいたい。
- 一般の避難所でも、電源が確保できれば学校の一室を医療的ケアが必要な方の避難スペースにでき、福祉避難所まで行かなくても避難できるという安心感につながる。
- 障がいの種別や程度によって避難所で困ることは異なるため、当事者の意見を聞きながら避難所運営の検討をしてもらいたい。
- 災害時要援護者支援について、震災の経験を基に、他都市に誇れるような整備をしてもらいたいと思う。
- 次期神戸市障がい者プラン骨子案で「生産性向上」という言葉が使われているが、福祉の現場では適切ではないと思うので、表現については検討してもらいたい。